

問題 06-01 AD190164

□□□□

企業会計原則における保守主義の原則を適用した例はどれか

- ア 減価償却の計算方法を毎期継続して適用する
 イ 資本準備金と利益準備金を区別する
 ウ 棚卸資産の評価基準を低価法にする
 エ 複式簿記を使用し、会計帳簿に正確な記録を行う

問題 06-02 AD190165

□□□□

期首商品棚卸高 20 百万円、当期商品仕入高 100 百万円、期末商品棚卸高 30 百万円のと看、当期の売上原価は何百万円か

- ア 50 イ 70 ウ 90 エ 110

問題 06-03 AD190166

□□□□

表の前期実績に対して、当期は仕入原価の低減によって変動費率が 5% 下がり、経費削減などによって固定費を 800 万円削減できる。当期利益を 1,400 万円とする目標売上高は何万円か

単位 万円

売上高		10,000
総費用	変動費	3,000
	固定費	6,000
	計	9,000
利益		1,000

- ア 8,800 イ 9,400 ウ 9,450 エ 9,900

問題 06-04 AD190167

□□□□

前期繰越及び期中の仕入と売上は表のとおりであった。期末日である 3 月 31 日に先入先出法によって棚卸資産を評価した場合、その棚卸高は何円か

仕 入			売 上	
日付	数量 (個)	単価 (円)	日付	数量 (個)
前期繰越	10	100	4 月 20 日	4
5 月 1 日	15	90	8 月 31 日	8
10 月 15 日	5	70	11 月 20 日	6

- ア 840 イ 980 ウ 1,080 エ 1,180

問題 06-05 AD190264

□□□□

損益計算書を説明したものはどれか。

- ア 一会計期間内の資金の変動を、営業・投資・財務の 3 領域の活動で示したもの
 イ 一会計期間に属するすべての収益と費用を記載し、算出した利益を示したもの
 ウ 一定期間における、現金・預金の収入・支出を示したもの
 エ 会計期間末日時点でのすべての資産、負債、株主資本などを記載したもの

損益計算資料から求められる損益分岐点売上高は、何百万円か。

[損益計算資料] 単位 百万円

売上高	500
材料費（変動費）	200
外注費（変動費）	100
製造固定費	100
純利益	100
販売固定費	80
利益	20

ア 225

イ 300

ウ 450

エ 480

X 社では次の算定方式で、在庫補充量を決定している。第 n 週の週末時点での在庫量を $B[n]$ 、第 n 週の販売量を $C[n]$ としたとき、第 n 週の週末に発注する在庫補充量の算出式はどれか。ここで、 n は 3 以上とする

[在庫補充量の算定方式]

- (1) 週末ごとに在庫補充量を算出し、発注を行う。在庫は翌週の月曜日に補充される。
- (2) 在庫補充量は、翌週の販売予測量から現在の在庫量を引き、安全在庫量を加えて算出する
- (3) 翌週の販売予測量は、先週の販売量と今週の販売量の平均値とする
- (4) 安全在庫量は、翌週の販売予測量の 10% とする

ア $(C[n-1]+C[n])/2 \times 1.1 - B[n]$ イ $(C[n-1]+C[n])/2 \times 1.1 - B[n-1]$ ウ $(C[n-1]+C[n])/2 + C[n] \times 0.1 - B[n]$ エ $(C[n-2]+C[n-1])/2 + C[n] \times 0.1 - B[n]$

財務諸表のうち、一定時点における企業の資産、負債及び資本を表示し、企業の財政状態を明らかにするものはどれか

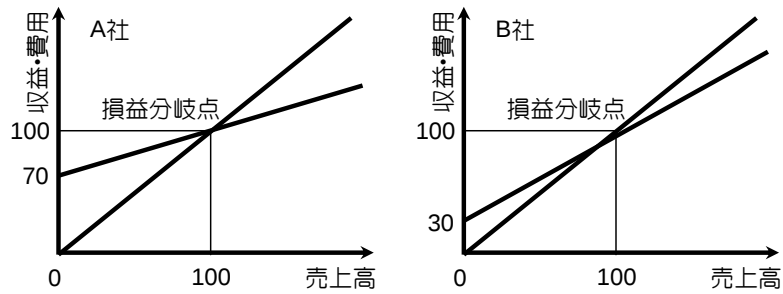
ア 株主資本等変動計算書

イ キャッシュフロー計算書

ウ 損益計算書

エ 貸借対照表

図は二つの会社の損益分岐点を示したものである。A 社と B 社の損益分析に関する記述のうち、適切なものはどれか。



- ア A 社、B 社ともに売上高が増加した場合、固定費の少ない B 社の利益が A 社に比べて増加する。
- イ A 社では製品 1 個当たりの変動費が少ないので、損益分岐点を超えた売上高のとき、B 社に比べ利益が大きくなる。
- ウ 両者の損益分岐点は同じなので、同じ利益を生み出すために必要な売上高は両者とも常に同じである。
- エ 両者は損益分岐点と同じであり、固定費も同じであるので、売上高が同じであれば、損益も同じになる。

問題 06-10 AD200166

□□□□

ある商品の当期の売上高、費用、利益は表のとおりである。この商品の販売単価が 5 千円の場合、来期の利益を 2 倍以上にするためには少なくとも何個販売すればよいか。

単位 千円	
売上高	10,000
費用	
固定費	2,000
変動費	6,000
利益	2,000

- ア 2,400 イ 2,500 ウ 3,000 エ 4,000

問題 06-11 AD170167 AD150268 AD200167

□□□□

損益分析において、固定費として扱われるものはどれか

- ア 商品の配送費用 イ 直接作業員の時間外手当
- ウ 販売量に応じた販売店へのリベート エ マスコミ媒体広告費

問題 06-12 AD200263

□□□□

キャッシュフロー計算書において、財務活動によるキャッシュフローに該当するものはどれか。

- ア 株式の発行による収入 イ 商品の仕入による支出
- ウ 損害賠償金の支払による支出 エ 有形固定資産の売却による収入

問題 06-13 AD170265 AD200264

□□□□

損益分岐点に関する記述のうち、適切なものはどれか

- ア 固定費が変わらないとき、変動費率が低くなると損益分岐点は高くなる
- イ 固定費が変わらないとき、変動費率が元の 1/2 になれば損益分岐点も 1/2 になる
- ウ 損益分岐点での売上高は、固定費と変動費の和に等しい
- エ 変動費率がかわらないとき、固定費が小さくなると損益分岐点は高くなる

問題 06-14 AD200265

□□□□

商品 A を先入先出法で評価した場合、当月末の在庫の評価額は何円か。

日付	商品 A の取引内容	個数 (個)	単価 (円)
1	繰越在庫	10	100
4	購入	40	120
5	払出し	30	
7	購入	30	140
10	購入	10	110
30	払出し	30	

ア 3,300 イ 3,400 ウ 3,600 エ 3,900

問題 06-15 AD200266

□□□□

決算において、棚卸磨耗費として処理するものはどれか。

- ア 期中に購入した有価証券の時価が期末に下落している場合
 イ 仕入れた商品の時価が期末に下落している場合
 ウ 実地棚卸数量が帳簿数量に満たない場合
 エ 有形固定資産を定額法で減価償却する場合

問題 06-16 AD180165 AD150266 AD210164

□□□□

企業会計において、仕訳において日付順に整理された取引を、勘定科目ごとに記帳整理し、決算に必要な基礎資料を提供する役割を果たすものはどれか

ア 試算表 イ 仕訳帳 ウ 精算表 エ 総勘定元帳

問題 06-17 AD140269 AD210165

□□□□

当期の財務諸表分析の数値が次のとき、売上原価は何百万円か

- (1) 売上原価率 : 80%
 (2) 売上高営業利益率 : 10%
 (3) 営業利益 : 200 百万円

ア 1400 イ 1600 ウ 1800 エ 2000

問題 06-18 AD210166

□□□□

移動平均法による材料の払出単価の計算方法はどれか。

- ア 購入した各材料単価の平均を払出単価とする。
 イ 購入する都度、材料ごとの購入価格を記録し、最も早く購入した材料の購入単価を期中の払出単価とする。
 ウ 購入する都度、そのときの残高とその材料の購入金額を加算し、それを残量と購入量の合計数量で割り、払出単価とする。
 エ その期の最後に購入した材料の単価を期中の払出単価とする。

問題 06-19 IP210114 □□□□

売価が 20 万円の新品を売り出して、8,000 万円を売り上げた。固定費は 4,000 万円であり、利益は 2,000 万円のマイナスであった。利益をマイナスにしないためには、あと何個以上売らなければならないか。

- ア 100 イ 200 ウ 400 エ 800

問題 06-20 IP210116 □□□□

損益計算書を説明したものはどれか。

- ア 一会計期間における経営成績を表示したもの
イ 一会計期間における現金収支の状況を表示したもの
ウ 企業の一定時点における財務状態を表示したもの
エ 純資産の部の変動額を計算し表示したもの

問題 06-21 IP210210 □□□□

キャッシュフローの増加要因となるものはどれか。

- ア 受取手形や売掛金などの売上債権の増加
イ 器具や備品などの投資金額の増加
ウ 製品在庫などの棚卸資産の増加
エ 短期や長期の借入金の増加

問題 06-22 IP210213 □□□□

損益計算資料から求められる損益分岐点となる売上高は何百万円か。

[損益計算資料]	単位 百万円
売上高	400
材料費（変動費）	140
外注費（変動費）	100
製造固定費	100
粗利益	60
販売固定費	20
営業利益	40

- ア 160 イ 250 ウ 300 エ 360

問題 06-23 IP210218 □□□□

企業会計を財務会計と管理会計に分類したとき、管理会計の特徴を表したものはどれか。

- ア 一会計期間ごとに決算を行い、貸借対照表や損益計算書などの財務諸表の作成が強制される
イ 企業の経営者が、株主や債権者などの企業外部の利害関係者に対して会計報告を行う
ウ 財務諸表規則や企業会計原則、各種会計基準などの会計法規に準拠した会計処理を行う必要がある
エ 部門、製品、地域別などの予算統制、利益管理、業務評価など、経営判断のための内部報告書を作成する

問題 06-24 IP210293-96 □□□□

N 社の営業部では、今年度の販売戦略立案に向けて、前年度の商品売上実績を売上総利益率、商品回転率及び売上構成比

率の視点で分析することにした。ここで、商品回転率は、一定期間の売上高を平均在庫高で割った値である。分析には表計算ソフトを用いることとし、前年度の売上に関する資料を基に図のようなワークシートを作成した。ここで、列 I、列 J の計算式は、セル A2～H11 の範囲を、列 B をキーとして降順に整列した後に入力する。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
1	商品名	売上高 (千円)	売上 原価 (千円)	売上 総利益 (千円)	売上 総利益率 (%)	平均 在庫高 (千円)	商品 回転率 (回)	売上 構成比率 (%)	売上構成 比率累計 (%)	ランク
2	商品あ	1,730			30.8	120	14.4	14.8		
3	商品い	410			23.4	50	8.2	3.5		
4	商品う	2,630			22.7	220	12.0	22.5		
5	商品え	3,360			30.7	364	9.2	28.8		
6	商品お	310			25.2	29	10.7	2.7		
7	商品か	210			21.0	30	7.0	1.8		
8	商品き	860			28.6	97	8.9	7.4		
9	商品く	610			28.2	40	15.3	5.2		
10	商品け	300			18.7	35	8.6	2.6		
11	商品こ	1,260			22.1	90	14.0	10.8		
12	合計	11,680								

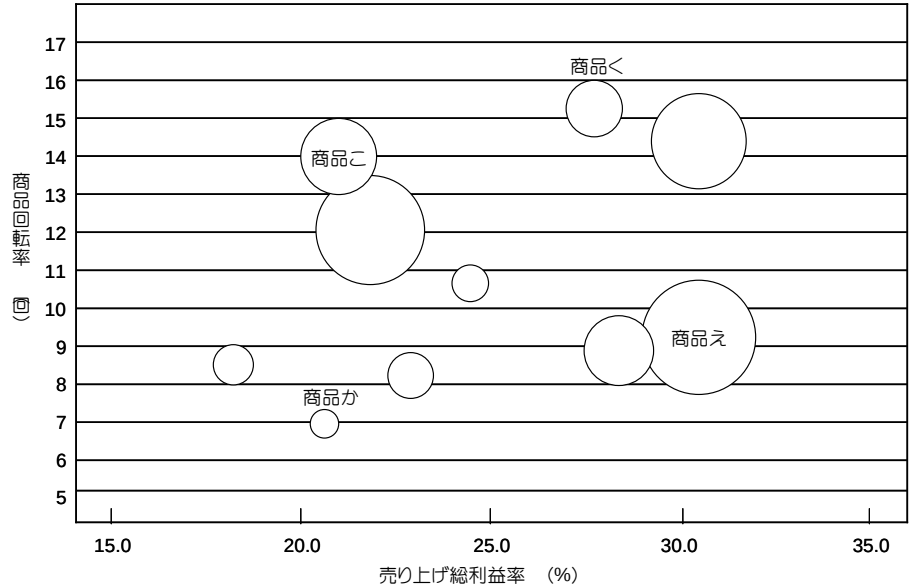
注 網掛けの部分は、表示していない。

図 商品別販売分析ワークシート

問 図のセル E2 に入力されている計算式として適切なものはどれか。ここで、計算式では百分率の処理や端数処理を行わず、セルの表示形式でパーセント表示をしている。

- ア C2/B2
- イ D2/B2
- ウ D12/B12*B2
- エ D2/D12

問 売上の分析に当たっては、売上総利益率と商品回転率がともに高い商品が、販売効率が良く利益の上がる良い商品と判断される。そこで、販売効率を示す指標と売上高を視覚的に確認するために、各商品の売上高、売上総利益率及び商品回転率の関係を次の図のようなバブルチャートにして表した。この図を分析した内容として、適切なものはどれか。



ア “商品え” は、薄利多売で利益を上げている商品であり、利益を維持するためには品切れが起こらないよう商品管理に注意する必要がある。

イ “商品か” は、売上高は少ないが最も販売効率が良いので、現状維持でよい。

ウ “商品く” は、売上高は多くないが、余分な在庫が少なく、利益が大きいので、売上を増やす工夫をすれば効率よく利益の増加が図れる。

エ “商品こ” は、販売数量は少ないが価格の高い高級商品であり、幅広い顧客層を維持するためには大切な商品である。

問 N社では、売上構成比率を基準に商品をランク分けし、ランクに応じた仕入、販売管理の重点化を図っている。次の条件に従い、図の商品別販売分析ワークシートを用いて商品のランクを求めるとき、セル J2 に入力する計算式はどれか。

〔条件〕

- (1) セル A2～H11 の範囲を、列 B をキーとして降順に整列する。
- (2) セル I2 に、セル H2 の値を複写する計算式を入力する。
- (3) セル I3 に、計算式 I2+H3 を入力し、セル I4～I11 に複写する。
- (4) ランク分けの基準は、表のとおりである。

ランク	売上構成比率累計による区分
A	上位 70%以内に入る商品
B	ランク A ではないが上位 90%以内に入る商品
C	ランク A、ランク B 以外の商品

ア $\text{IF}(\text{I2} \leq 0.7, 'A', \text{IF}(\text{I2} \leq 0.9, 'B', 'C'))$

イ $\text{IF}(\text{I2} \leq 0.9, 'C', \text{IF}(\text{I2} \leq 0.7, 'A', 'B'))$

ウ $\text{IF}(\text{I2} \geq 0.7, 'A', \text{IF}(\text{I2} \geq 0.9, 'B', 'C'))$

エ $\text{IF}(\text{I2} \geq 0.9, 'C', \text{IF}(\text{I2} \geq 0.7, 'A', 'B'))$

問 今年度の販売戦略立案に当たり、売上構成比率を売上高上位の商品から順に累計した売上構成比率累計が 70%以内で、商品回転率が 10 回以下の商品を抽出し、商品回転率の改善を図る重点商品としたい。対象となる商品は何品目あるか。

ア 1 イ 2 ウ 3 エ 4

問題 06-25 IP220105

□□□□

次の損益計算書から求められる営業利益は何百万円か。

単位 百万円

売上高	7,500
売上原価	6,000
販売費及び一般管理費	1,000
営業外収益	160
営業外費用	110
特別利益	20
特別損失	10
法人税等	260

ア 300 イ 500 ウ 550 エ 1,500

問題 06-26 IP220106

□□□□

企業の売上高、固定費及び変動費が分かっているとき、損益分岐点比率、損益分岐点売上高及び変動比率は、それぞれ次の式で求めることができる。これらの式から言える適切な記述はどれか。

損益分岐点比率 = 損益分岐点売上高 ÷ 売上高

損益分岐点売上高 = 固定費 ÷ (1 - 変動費率)

変動費率 = 変動費 ÷ 売上高

ア 売上に占める固定費が大きいほど、損益分岐点比率は低くなり、利益が増加する。

イ 損益分岐点比率が高いほど、売上に対する利益は多くなる。

ウ 損益分岐点比率が低いほど、売上に対する利益は多くなる。

エ 変動費率が高くなれば、損益分岐比率は低くなり、利益も低下する。

問題 06-27 IP220110

□□□□

親会社が、子会社を含めた企業集団の決算日における資産と負債、純資産を対比して示すことによって、企業集団の財務状態を表す連結財務諸表はどれか。

ア 連結株主資本等変動計算書

イ 連結キャッシュフロー計算書

ウ 連結損益計算書

エ 連結貸借対照表

問題 06-28 IP220119

□□□□

企業の経営状況を外部に公開することを何というか。

ア 株式公開

イ 企業格付け

ウ コンプライアンス

エ ディスクロージャ

問題 06-29 IP220208

□□□□

新規システムの構築を、新規開発又はパッケージ採用によって実施する場合の初期投資額、効果額、運用費、保守料が表のとおりであるとき、初期投資額の回収年数が最少となるものはどれか。

	システムの 構築方法	初期投資額 (万円)	効果額 (万円/年)	運用費 (万円/年)	保守料 (万円/年)
ア	新規開発	1,250	720	240	180
イ	新規開発	900	510	170	90
ウ	パッケージ採用	800	440	120	160
エ	パッケージ採用	600	300	80	120

問題 06-30 IP220219

□□□□

損益計算書に記載される A～E の五つの利益のうち、C に当てはまるものはどれか。

単位 億円

売上高	100
売上原価	75

A	25
販売費及び一般管理費	10
B	15
営業外収益	3
営業外費用	7
C	11
特別損失	2
D	9
法人税・住民税及び事業税	3
E	6

ア 売上総利益 イ 営業利益 ウ 経常利益 エ 当期純利益

問題 06-31 IP220221 □□□□

財務諸表のうち、“営業活動”、“投資活動”、“財務活動”の三つの活動区分に分けて表すものはどれか。

ア キャッシュフロー計算書 イ 損益計算書
ウ 貸借対照表 エ 有価証券報告書

問題 06-32 IP220226 □□□□

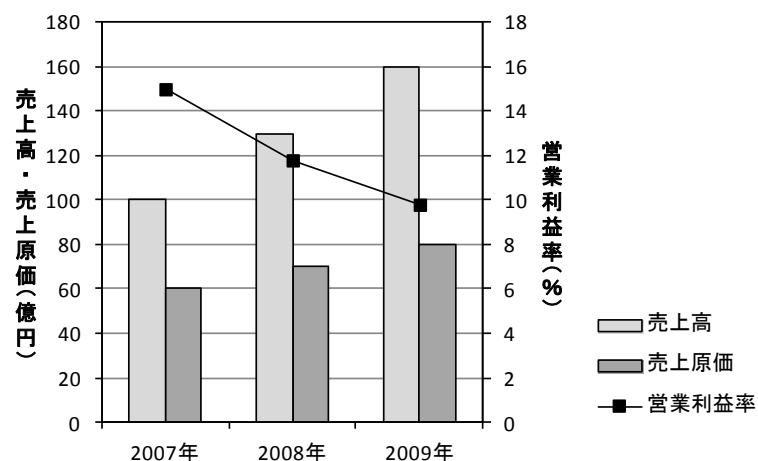
A社は製品Bの製造及び販売を行っている。このとき、製品Bの総原価を計算する方法のうち、適切なものはどれか。
ここで、総原価は製品Bの販売までに要したすべての原価を指す。

ア 製品Bの売上高 － 製品Bの営業費
イ 製品Bの売上高 － 製品Bの製造原価
ウ 製品Bの製造原価 ＋ 製品Bの営業費
エ 製品Bの製造原価 ＋ 製品Bの営業利益

問題 06-33 IP230118 □□□□

A社の3年間の業績推移を占めずグラフに関して、次の記述中のa、bに入れる字句の適切な組合せはどれか。

売上高に対する、売上原価の比率は a 傾向、販売費及び一般管理費の比率は b 傾向である。



	a	b
ア	減少	減少
イ	減少	増加
ウ	増加	減少
エ	増加	増加

問題 06-34 IP230119 □□□□

企業が投下した自己資本に対してどれだけの利益を上げたかを示す、企業の収益性指標として、最も適切なものはどれか。

ア EVA イ PER ウ ROA エ ROE

問題 06-35 IP230121 □□□□

製造・販売業 A 社の損益分岐点売上高を下げる施策として、最も適切なものはどれか。

- ア 現状と同一の設備を追加し、生産量の増加を図る。
- イ 人件費の抑制と、間接部門の合理化を進める。
- ウ 販売価格は一定のまま、製品の販売数量増大を図る。
- エ 販売数量は現状のまま、製品の販売価格を下げる。

問題 06-36 IP230206 □□□□

単価 200 円の商品を 5 万個発売したところ、300 万円の利益を得た。固定費が 300 万円のとき、商品 1 個あたりの変動費は何円か。

ア 60 イ 80 ウ 100 エ 140

問題 06-37 IP230209 □□□□

損益計算書の営業利益の算出に關係する費用はどれか。

- ア 広告宣伝費 イ 固定資産売却損
- ウ 支払利息 エ 法人税

問題 06-38 IP230212 □□□□

システム開発に関する投資プロジェクト A～D のうち、最も早く投資を回収できるものはどれか。ここで、毎年の維持管理費用として、初期投資の 10%が発生するものとする。

単位 百万円

プロジェクト名	初期投資	利益計画		
		1 年目	2 年目	3 年目
投資プロジェクト A	200	50	150	200
投資プロジェクト B	300	100	200	300
投資プロジェクト C	500	200	400	400
投資プロジェクト D	600	300	400	400

ア A イ B ウ C エ D

商品の販売による収入は、キャッシュフロー計算書のどの部分に記載されるか。

- ア 営業活動によるキャッシュフロー
- イ 財務活動によるキャッシュフロー
- ウ 投資活動によるキャッシュフロー
- エ キャッシュフロー計算書には記載されない。